

ならちゆうしん経営研究会 例会報告  
第 321 回 研究会（ベトナム視察研修）

日 時 平成 30 年 3 月 15 日(木) ～ 18 日(日)

場 所 海外視察 ベトナム社会主義共和国

内 容 第 1 日目 3 月 15 日(木)

午前 11 時 00 分 関西国際空港発

午後 2 時 30 分 ホーチミンタイソンニャット国際空港着

第 2 日目 3 月 16 日(金)

1. 企業視察 VIETNAM SHINE CO., LTD.

(DongNai省BienHoa市アマタ工業団地)

フライパン製造(テフロン樹脂加工、フッ素樹脂加工)

2. 企業視察 ACECOCK VIETNAM JOINT STOCK COMPANY

(HoChiMinh市)

即席麺製造

店舗視察 AEONモール

イオンベトナム 1 号店

第 3 日目 3 月 17 日(土)

3. 企業視察 JUKI(VIETNAM) CO., LTD.

(HoChiMinh市)

店舗視察 Crescent Mall

第 4 日目 3 月 18 日(日)

午前 1 時 00 分 ホーチミンタイソンニャット国際空港発

午前 7 時 30 分 関西国際空港着

今年度の視察研修は、期初の計画通り、ベトナム社会主義共和国への海外視察研修を実施いたしました。

(ベトナム社会主義共和国について)

ベトナム社会主義共和国は、東南アジアのインドシナ半島東部に位置する社会主義共和国で首都は北部のハノイです。人口は 9, 260 万人、名目 GDP は 2, 013 億 U S ドル、国民 1 人当たりの GDP は 2, 173 U S ドルで東南アジア諸国でも低位にあります。

ベトナムは越南と言われ古くより繰り返し中国からの侵略と支配を受けてきた歴史があります。近世では1847年のダナンの戦いを契機にフランスの植民地支配が始まりました。第二次世界大戦の日本軍進駐によりフランスの植民地支配より開放されましたが、戦後1946年よりインドシナ戦争が勃発し、ベトナム民主共和国(北ベトナム)とベトナム共和国(南ベトナム)に分裂しました。1962年からは南ベトナムにアメリカが軍事介入しベトナム戦争が始まり1975年のサイゴン陥落まで続きました。翌年、南ベトナム消滅により南北統一が実現し、初めての南北統一選挙が行われ、ベトナム民主共和国がベトナム社会主義共和国に改名されました。しかし、その後もカンボジア・ベトナム戦争、中越戦争と戦争は続き、漸く1991年越中国交正常化により平和が訪れました。

1995年アメリカと和解し、同年東南アジア諸国連合(ASEAN)への加入が認められ、1998年アジア太平洋経済協力機構(APEC)に参加、2007年には世界貿易機関(WTO)に正式加盟しました。

近年の日本との関係は「緩やかな同盟関係」と評され、日本政府によるODA、経団連による経済支援が積極的に展開されており、空港や架橋、道路、トンネルなどベトナムの基幹インフラの整備に日本からの援助が一役を買っています。特に本田技研工業はベトナムにおける主要な交通手段となっているオートバイを1970年代より販売しており同国では最も知られた日本企業です。2003年には日越投資協定を締結し、日系企業の本格進出が始まりました。

ベトナム人の平均年齢は30歳で20～34歳が人口ピラミッドのボリュームゾーンとなっておりベトナム戦争後に生まれた世代が中心の若く活力ある国です。



サイゴン大教会

(VIETNAM SHINE CO., LTD. 視察)

第2日目3月16日の午前中に最初の視察先としてベトナムシャイン有限責任会社を訪問させて頂きました。同社は2004年6月に設立され、今年で14年目を迎えます。約10,000㎡の敷地に3棟の工場倉庫が立ち並び、アルミニウム製のフッ素樹脂加工を施したフライパンを主に生産されています。また隣接した別工場(約6,000㎡)では別会社にてセラミックコーティング製品を生産されています。同社はベトナム国内向けが2割、日本を中心とした輸出向けが8割の販売構成です。ベトナム国内向けは自社ブランド製品で、日本向けはOEM製品が主力でベトナム製フライパンのほぼ全量を賄い年間約110万本を日本に輸出されています。

最初に川崎社長より会社の概要、ベトナム進出の経緯、同社の製品についてご説明頂いた後、工場を見学させて頂きました。ベトナムシャインでは、原料であるアルミニウムの溶解からプレス、フッ素樹脂加工、組立、仕上げまで全工程を同社工場で完結する一貫生産を実現されコストダウンを図っています。スタッフは約120名、若いスタッフが多く、勤勉、真面目な勤務態度が窺え、同社のベトナム現地社員への教育、管理レベルの高さに感心しました。



(ACECOCK VIETNAM JOINT STOCK COMPANY視察)

第2日目3月16日の午後は、エースコックベトナム株式会社を訪問させて頂きました。最初に梶原社長より歓迎のご挨拶を頂いた後、マーケティング管理部門長の高田氏より同社の概要やベトナムでのビジネス環境についてご説明を頂き、製造管理長の山田氏に工場内を案内頂きました。

同社は1993年12月に設立され、1995年7月より即席麺の生産を開始されました。現在ではベトナム国内に7拠点11工場を有し5,444名（日本人スタッフ17名）のスタッフを雇用しています。ベトナムでは1990年代以降即席麺のマーケットが大きく成長し、中国、インドネシア、日本に次いで世界4位の消費国となり年間51億食が消費されています。その中で同社の国内シェアは50%を超えており揺ぎ無いリーディングカンパニーの地位を築きあげています。特に同社の高品質でおいしい「ハオハオ（Ha o Ha o）」という商品が大ヒットし年間15億食が販売され同国内での認知度は100%を誇っています。同社のベトナム国内での成功の秘訣は、「ベトナム国での食品全体の品質向上に貢献する」との理念のもと、国内での営業システムを構築し、嗜好・味覚の違いを克服するためにベトナム独自の味作りを研究し、高コストの障壁を乗り越えるため現地化を推進したことによるとのことでした。



### (JUKI (VIETNAM) CO., LTD. 視察)

第3日目3月17日の午前中は、ジュキベトナム有限責任会社を訪問させて頂きました。最初に中尾社長より同社の概要をご説明頂いた後、各カンパニー長の田中氏、佐藤氏、クン氏に工場内をご案内頂きました。

同社はホーチミン市タントアン輸出加工区内に設置された工業用ミシン・各種精密部品を製造するメーカーで、1995年1月に設立され2010年4月よりミシンの製造を開始されました。社内を縫製機器カンパニー（ミシン製造）、精密鑄造カンパニー（自動車部品、空圧工具等他社向け部品製造）、部品製造カンパニー（JUKIグループ向け部品製造）に分け工場のスマート化（生産の効率化）に取り組んでいます。42,100㎡の工場にスタッフ1,423名（日本人スタッフ9名）を雇用し、主力のミシンは月に1.5万台、年間18万台を生産され、主に中国、東南アジア向けに輸出されています。

工場は精密鑄造（第1工場）、頭部加工（第2工場）、部品加工（第3工場）、ミシン組立（第4工場）に分れ、各工場では「工場のスマート化」をキャッチフレーズに現場改善に積極的に取り組んでおられました。同社では創立時よりホーチミン工科大学の優秀な理系人材を採用し、現地スタッフによる高いマネジメントを実現されています。



(まとめ)

今回のベトナム視察研修にご協力頂きました企業の皆様のお言葉によりますと、ベトナム社会主義共和国は、政治的、宗教的に安定しており治安が良く歴史的な背景から親日家が多いとのことでした。社会主義国ではありますが1986年よりのドイモイ政策により市場経済路線へと転換し工業化と近代化を二大戦略として高度経済成長をめざしています。資源に恵まれ、良質な労働力が強みであり、人口ボーナス期にある活力ある国で、今後も海外進出先として注目していくべき国であります。

今回の視察先企業は、社員の大半が現地のベトナム人スタッフで、日本人スタッフはごく僅かな人数でした。現地で多くの人々を雇用し、外貨を稼ぎ、同国の経済発展に貢献して来られました。そのように進出国の発展に貢献すること、そして現地の文化、社会特性、国民性を理解し適応していくことが海外進出における成功の秘訣と学ばせて頂きました。

最後に、ベトナムシャインの川崎社長、近藤様、堀内様をはじめ、今回のベトナム視察研修が、多くの方のご好意により、充実した研修となりましたことに深く感謝申し上げます。